

議 事 録

会 議 名	令和5年度 第2回 教育課程編成委員会
日 時	令和6年2月16日(金) 15:00~17:00
場 所	中央工学校OSAKA 1号館 31・32教室
参 加 者	[委 員] (敬称略) 小松原 学、金沢 ちかこ、小坂田 昌広、田中 由之、岩尾 美穂 [関係職員] 中村 聖吾、原 充介、戸澤 まり子、中島 征治、 檜崎 悟志、諸岡 邦行、吉田 知恵 篠崎 潤一(記録)、太田 育子(写真)、平上 秀明(司会)
内 容	1. 令和5年度 第2回 教育課程編成委員会 司会の平上 秀明職員が開会の宣言を行い、教育課程編成委員会が開会した。 (ア) 学校長挨拶 中村校長より第1回教育課程編成委員会以降の本校の学校運営について報告があった。 ・11月13日(月)から17日(金)に教育懇談会を実施した。懇談を希望する保護者に対して、各クラス担任が成績・進路状況などを説明や相談を行った。 ・11月7日(火)から10日(金)に研究科が国内建築研修を実施した。迎賓館赤坂離宮、国会議事堂、中央工学校(東京校)等を見学した。 ・11月22日(水)にフィットネス21 東淀川体育館にてスポーツ大会を実施した。各クラス対抗でのバレーボール、ドッジボールを行った。 ・1月23日(火)から1月26日(金)に後期定期試験を実施。 ・2月6日(火)から2月9日(金)に後期追試験を実施。 ・2月14日(水)から2月15日(木)に卒業成果・制作発表会を実施した。14日(水)については、建築系3学科の1年生と研究科が学習成果の発表を行った。また15日(木)については、建築系3学科の2年生が卒業制作の発表を行った。会場とオン

ライン視聴の併用により、在校生や保護者、企業関係者などに発表を視聴いただいた。

- ・ 今後は卒業成績審議会と卒業証書授与式を予定。

(イ) 配布資料の確認

平上 秀明職員から、本日の配布物の確認を行った。

(ウ) 令和5年度教育内容について

戸澤学科長より令和5年度の建築系の教育について、配布資料に沿って説明があった。

【新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行後の建築系行事について】

- ・ 軽井沢合宿研修：コロナ禍に企画した代替イベントの結果が良好であったため、今年度においても代替イベントを継続するかたちで実施した。イベントの内容は、4月14日（金）に実施した新入生オリエンテーション研修「関係づくりワークショップ」や、5月26日（金）に実施した万博記念公園迎賓館でのテーブルマナー研修などを行った。
- ・ 富士施工実習：昨年度に引き続き、事前教育として9月28日（木）にガイダンス、9月29日（金）に足場特別教育を実施した。
- ・ 秋のイベント：昨年度に引き続き、「生きた建築ミュージアムフェスティバル大阪」へ参加で実施した。今年度は、中央工学校 OSAKA と服部緑地都市緑化植物園のコラボレーション企画として、植物園内の樹木や松ぼっくりを再利用した子供向けオブジェ制作のワークショップを行った。
- ・ スポーツ大会：今年度は、コロナ禍以前と同じように屋内の体育館にて実施できたが、昨年度に行った服部緑地陸上競技場でのスポーツ大会も学生に好評であったため、今後もスポーツ大会の在り方を柔軟に検討していく予定である。

【研究科について】

- ・ 国内研修：今年度の研究科の学生は、1,2年生時にコロナ禍で学校行事を制限していたこともあり、学生からの反応はおおむね好評であった。研修内容をまとめたレポート作成においても充実した結果を得られた。

【卒業成果・制作発表会について】

- ・2月15日（木）に建築系の各学科2年生の内、上位30%計19名が発表を行った。発表に対して学内外の審査員8名が審査を行い入賞者6名を決定した。
- ・審査基準としては、審査員が「テーマの掘り下げ度」や「プレゼンテーションの説明の明確さ」などを数値化し審査を行った。
- ・2月14日（水）に建築系の各学科1年生が、それぞれ30分間の自由発表を行った。

【新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行後の授業について】

- ・全授業対面実施とし、オンライン配信を実施しない方針で授業を行ったため、1年生の出席率が良く指導しやすい状況であった。
- ・2年生の出席については、昨年度までの習慣からか日々の登校に困難がある学生も多かった。特に電車遅延の遅刻が目立ち、授業によっては進めにくい状況も見受けられた。
- ・新型コロナウイルス感染症やインフルエンザは依然としてなくなっていないが、学生へのマスクの強制はできないため感染によって授業への遅れが出ている状況がある。

【資格試験対策について】

- ・合格率を上げる施策として、カリキュラムに捉われずに勉強時期や授業回数を柔軟に設定することによって、モチベーションが高い時期に効果的に勉強できる仕組みづくりを検討する。
- ・勉強意欲を高める施策として、宅建など学生からニーズの高い資格講座を開講することも検討する。
- ・注目度の高い資格として、「BIM」についての知識を習得できるBIM利用技術者試験や、国家資格であるITパスポートの講座開講も検討する。
- ・研究科の二級建築士試験の合格率向上の施策としては、研究科以前の1・2年生時から建築士以外の資格取得に取り組み、勉強習慣を身に付けることによって、後の建築士資格合格に繋がるのではと考えている。

【建築系の教育についてのまとめ】

- ・イベントを実施運営することによって、学生には実体験を通じた他者への配慮の学びや、コミュニケーションの成長などが見受けられた。
- ・今後は学習成果の質的向上を目指し、合理的かつ効率的なツールも活用しながら、より良いカリキュラム作りを進め、資格取得率やコンペ受賞率を向上させていく。

(エ) 令和5年度卒業成果・制作発表会発表作品の見学

平上 秀明職員より建築学科の作品説明、引き続き、吉田 知恵職員より住宅デザイン科の作品説明、戸澤 まり子学科長よりインテリアデザイン科の作品説明を行った。

(オ) 意見交換

【小松原 学委員】

- ・資格合格率向上については、データを分析して弱点をクリアしていく必要がある。また、専門学校の在り方や大学との立ち位置の違いを考える中に打開策があるのではないかと。
- ・社会の中で活躍するには資格や基礎学科能力がないと厳しい状況がある。
- ・卒業制作の内容は、毎年レベルアップしており素晴らしい。交流をテーマとした作品が多く、現在の学生に集団意識があることは良い傾向であるため、今後の教育のテーマに引き込んでいくことが重要だと考えている。
- ・教育は「これで良い」でいうことはないため、半永久的にステップアップが必要。
- ・文章技術の事例として「ChatGPT」に注目している。教育現場での利用による混乱も想定されるが、どのように生産効率を上げられるかという技術の使い方が問われる時代になっている。
- ・3D施工図等の新しい技術もゼネコンを中心に活用されている。その状況の中で学校教育はどのように対応するか考える必要がある。中央工学校 OSAKA には先端として教育の構築を行ってほしいと考えている。

【金沢 ちかこ委員】

- ・卒業制作について、ソフト面のレベルが上がったように見受けられた。作品の背景にあるストーリーやプロセスの作り方を学ぶことができていると感じた。
- ・1年生時の課題制作を通したデザインの捉え方が的を得ていると感じた。デザイナーに必要な遊び心を学んでいる。
- ・若い年齢層のクライアントはイメージに偏りがあり、皆同じ画像から情報を得て依頼をするという状況があるため、同じスタイルのデザインが溢れる懸念がある。学校での教育初期段階から多様なデザインスタイルがあることを指導する必要がある。

【小坂田 昌広委員】

- ・資格対策は社会に出てからは勉強時間を確保しづらいため、学校で集中的に勉強をすることは良いと考えている。
- ・資格制度上、今後問題の難易度が易しくなることはないと考えられるが、資格者を増やすために制度が緩和される可能性はあるため、学校での勉強機会はチャンスであると認識している。
- ・卒業制作について、与えられた条件からつくるのではなく、自らの発想から制作物をつくる姿勢が良いと感じた。
- ・学生の作品は、教員から得た情報に影響される傾向があると聞いたが、より良い情報を与えて質の向上を図ることが重要である。

【田中 由之委員】

- ・2025年4月より住宅の省エネ基準への適合義務化が予定されており、今後は省エネ計算が必ず必要な状況がある。専門学校でも、概要や関連知識を教育する必要があると考えている。
- ・資格対策について、自身の建築士試験受験の際は施工分野のイメージが想像できなかった経験があった。中央工学校は施工実習が学校行事としてあるため、建築士試験の学科知識を併せて学ぶ機会となれば良いと考えている。
- ・卒業制作について、全体的にレベルは上がっていると感じるが、建築の設計に力が入っている分、ランドスケープの計画がおろそかになっているように見受けられた。外部も含めて建築であるという意識が必要である。
- ・卒業成果・制作発表会の場で、1年生の発表が行われたことは良

いことだと考えている。1年生時から、自身で自分たちがどれだけのことをしているのか意識する良い機会であると感じた。

【戸澤 まり子学科長】

- ・学内での建築士試験の結果を分析すると、「学科の試験」得点数と「設計製図の試験」合格率は対応する関係にあることが分かっている。「学科の試験」の得点を伸ばすには、研究科以前の1年時より指導が必要であると考えている。
- ・学内における「学科の試験」の分野ごとの得点状況について、近年は施工に関して大きな問題はないが、構造と法規の得点が低いため、対策を検討する必要がある。

【岩尾 美穂委員】

- ・卒業制作について、資料の見せ方や模型の精度などのレベルが高いと感じた。
- ・プレゼンテーションで成功した学生もいたようだが、プレゼンテーション能力は非常に重要であると考えている。個人的経験においても、クライアントにいかにか「一緒に仕事がしたい」と感じてもらえるかを追求し、服装や髪型まで計算したプレゼンテーションをすることによって、仕事を獲得することができた経験がある。

2. 閉会の辞

平上 秀明職員が閉会の宣言を行い、教育課程編成委員会が閉会した。

【配付資料一覧】

- ・令和5年度 第2回教育課程編成委員会 次第
- ・令和5年度 建築系の教育について
- ・令和7年度 入学者用学校案内書

以上